

「歴史・文化資源の連携と活用」による地域経済の活性化 ～「歴史文化施設」を中心とした歴史・文化資源のネットワーク～

主な御意見

論点1 歴史・文化資源を活用したブランディング**本物の歴史・文化資源を活用したブランディング**

- ・石垣などの「本物の資源」の打ち出しによる歴史のブランディング（小泉委員）
- ・調査の途中段階の「歴史・文化資源」の売り出し、見せる工夫によるブランディング（小泉委員）
- ・本物の天守台の場所でのARを利用した天守台の演出によるブランディング（西尾委員）
- ・天守台周辺で、VR等の技術の活用と回廊や橋等の設置により、歴史・文化資源に触れられる場所、写真を撮りに行きたいと思う場所を作り集客する。その横にお金を落としてもらえる施設を設置する。（小島委員）

テーマの設定によるブランディング

- ・家康（駿府城、浅間神社、臨濟寺、浮月楼、久能山東照宮のセット）（一富士、二鷹、三茄子の物語）などのテーマの設定（植田委員）
- ・臨濟寺などの普段見ることができない、又体験することができない資源の特別拝観、公開によるブランディング（内山委員）
- ・京都の特別拝観のように、市内の歴史資源の特別拝観を時期を特定して行う。その企画・運営を観光案内組織、ガイド組織、歴史文化施設、市内の歴史拠点施設が連携して行う体制をつくる。（事務局は、するが企画観光局等）（小泉委員）

各資源の磨き上げ、絞り込みによるブランディング

- ・静岡の場所や食べ物の絞り込みと磨き上げ（鈴木委員）
- ・市内の現地の資源や展示などでの、目玉商品の明確な打ち出し（小泉委員）

人材によるブランディング

- ・発信力、動員力がある、歴史を語る人材、歴史の権威ある人材の確保や育成を行う（坂野委員）

論点2 歴史・文化資源ネットワークの構築**各拠点への観光案内機能、ガイド機能、コンシェルジュ機能の設置と観光プランの提案****（歴史文化施設へ設置）**

- ・観光案内機能とガイド機能の両方のサテライト機能（出店）を歴史文化施設のビジターセンターエリアに一体的に確保し、歴史ガイドの受付、市内の観光案内、レンタサイクルの貸し出し等を行う。（小泉委員）
- ・施設整備の段階で、連携する外の組織の活動拠点や資料置場のスペース・設備を確保し、連携する団体の活動を十分考慮した準備が重要。（小泉委員）

（駿府城公園に設置）

- ・静岡の歴史の中心である駿府城内に拠点を作りセンターステーションとし、市内各所にサブステーションを設けてサポートしていく。静岡を訪れる人にとって、「メモリアルな場所」となるようにしていく。（植田委員）
- ・駿府城公園へのガイドの配置により、浅間神社までのプチ・ネットワークを構築（内山委員）

（駅に設置）

- ・静岡駅から歴史文化施設までの案内のため、駅等へサブの案内所を設置する（植田委員）
- ・JRとの協力による駅への案内所の設置（田形会長）
- ・東静岡駅の長距離バス利用者への観光情報等の提供（鈴木委員）
- ・インバウンド対応を意識した、新幹線改札口でのサイネージ、QRコードによる案内（岩井委員）
- ・無人でも24時間AI等が対応する案内所を設置（岩井委員）

（街中に設置）

- ・街中（呉服町等）の通りへ案内スペースを設置する（内山委員）

（テーマ・目的・滞在時間別にコースを提案）

- ・駅から1時間以内、3時間以内、1日で行ける歴史観光の各種コースを売り込む。更に夜のコースも設ける。（植田委員）
- ・滞在時間別の回遊プランを提案する（小泉委員）
- ・来訪の目的、滞在可能時間に合わせ、駿府浪漫バスで、観光ガイドが案内するコースの開発など、来訪者が容易に目的地に行くことができる方策を構築する。（内山委員）
- ・歴史文化施設のビジターセンターに、テーマや所要時間ごとのモデルコースの提案など、利用者ニーズに応える情報提供を行うコンシェルジュ機能を設置（西尾委員）
- ・JR静岡駅前、街中に、来訪者が目的・滞在可能時間に合わせ、回遊するコース・時間を提案するガイドを配置（内山委員）

企業による観光プランの企画・販売

- ・東京の「はとバス」のように、回遊ルートのモデルコースでツアーを企画して（旅行会社が）発売する。（田形会長）

食のコンテンツとの連携

- ・魅力的な食のコンテンツと歴史文化施設とを連携させる（青葉公園のイベント等）（杉山委員）

構築したネットワークの継続

- ・（例）ネットワークを組織的にマネジメントできる体制の構築（ネットワーク会議、情報交換、外部委員等）

主な御意見

論点3 「滞在時間延長」「宿泊」「リピーター」につなげる

市外からの誘客促進

- ・静岡は東京や京都に行く人の拠点となる、インバウンドのお客様にとってのハブの街になり得る。そういう便利さを情報発信し、静岡に滞在していただければ良い。（鈴木委員）
- ・昼食会場、観光バス駐車場のプロモーションにより観光バス、観光コースを呼び込む（小泉委員）
- ・スマート・インターチェンジの開通により利便性が向上したことの情報発信。（内山委員）

歴史にあまり興味のない人へのアプローチ

- ・歴史文化にあまり興味のない人でも、歴史に親しみながら楽しめる部分が必要。（小泉委員）
- ・歴史に興味が出てきた方の入り口の施設には、デザインと遊び心が非常に重要。（小島委員）
- ・ラグビーワールドカップのプロモーションのように、歴史に興味のない人に興味を持たせる方策が重要（小島委員）

夜のイベント・夜の観光ガイドの実施

- ・ライトアップ、ライティングにより夜の滞在、宿泊者の増加を促す（小島委員）
- ・お堀の周りにライトアップを実施し、夜の集客につなげる（小島委員）
- ・夜の観光のため、ホテルと情報提供の連携を行う（植田委員）
- ・夜に活動する観光ガイドを設置する（田形会長）
- ・インフォメーション認定試験の実施により、ホテルのフロントを市公認のインフォメーションとし、夜のガイドの実施する（小島委員）

論点4 歴史・文化資源の価値を高め、稼げる資源に変える

特別感による価値・収益の向上

- ・京都の特別拝観のように、市内の歴史資源の特別拝観を時期を特定して行う。その企画・運営を観光案内組織、ガイド組織、歴史文化施設、市内の歴史拠点施設が連携して行う体制をつくる。（事務局は、するが企画観光局等）（小泉委員）（再掲）
- ・臨濟寺などの普段体見ることができない、又体験することができない資源の特別拝観、公開（内山委員）（再掲）

- ・本物の天守台の場所でのARを利用した天守台の演出（西尾委員）（再掲）
- ・天守台周辺で、VR等の技術の活用と回廊や橋等の設置により、歴史・文化資源に触れられる場所、写真を撮りに行きたいと思う場所を作り集客する。その横にお金を落としてもらえる施設を設置する。（小島委員）（再掲）

イベントによる資源の活用

- ・駿府城のお堀を利用した葵舟を観光回遊だけでなく、花嫁舟として結婚式のパレード、記念日のパレード（金婚式、還暦、喜寿、米寿等）または記念撮影に利用して付加価値を高める。更に結構式場へ花嫁と花婿を人力車で送迎するにも利用する。（植田委員）

各資源での観光ガイドの実施

- ・街中にある史跡・町名碑等にQRコードを設置し、それを読み取るにより簡単なガイドをする取組みも、単独で行動する来訪者に有効（日本平の赤い靴の女の子の像）。（内山委員）

観光客の利便性の向上

- ・静岡駅構内およびその周辺でのコインロッカーの確保（鈴木委員）
- ・来館者が休憩できるスペースをカフェの近くに確保し、そこで地元のガイドと気軽に話せるようにする。一般向けの書籍も置いて閲覧できるようにする。（小泉委員）
- ・観光トイレが一部施設（浅間神社）で老朽化してきており、快適ではない。（内山委員）

市の施設を活用した収入の確保

- ・市がハードを整備し、アイデアのある事業者に貸し出して家賃収入を得るのが有効（小島委員）
- ・トイレの有料化による収入の確保（田形会長）

観光客と市民の共生

- ・オーバーツーリズムの問題もあるため、観光客と市民の共生の概念が必要。（西尾委員）

施設・イベントの料金設定について

- ・体験内容、サービス内容に合わせた料金設定が必要（市外、県外、国外の人、旅行者、カップル、英語でのガイド等）（小島委員）
- ・静岡の施設はタダが多いが、お金が取れるころに変えていかなければならない。（植田委員）
- ・施設を維持し、定期的にブラッシュアップしていくための財源とするため、利益を上げていくことが必要。（小島委員）
- ・高くてもそこに得るものがあれば、遠くからでも良質な方が静岡を訪れてくれる。（小島委員）
- ・タダだと逆にその価値が安っぽく見えてしまうこともある。（鈴木委員）

主な御意見

論点5 市内外への効果的な情報発信

発信力のある人を活用した情報発信

- ・高校生、大学生あるいは若いネットワークを持っている人達による、静岡の魅力の友人、知人、世界の人々への発信（鈴木委員）
- ・口コミを活用した情報発信、歴史文化施設に関わりのある人を増やす取組（坂野委員）
- ・観光大使、有名俳優、有名タレント、大学生など影響力のある方や観光事業者、メディアなどへのモデルコースへ招待するなどによる市内外への情報発信（内山委員）

最新の技術を活用した情報発信

- ・無人でも24時間AI等が対応する案内所を設置（岩井委員）（再掲）
- ・首都圏からの利用者を獲得するための、SNS等の電子媒体の活用（植田委員）

効果的なコンテンツへの絞り込み

- ・情報発信するコンテンツをターゲットに合わせて絞り込む（杉山委員）
- ・一点突破の情報コンテンツが有効である（小島委員）

論点6 回遊しやすい交通アクセス

レンタサイクルの活用

- ・「自転車のまち」しずおかを生かして、レンタサイクルの拠点を静岡駅、歴史文化施設、史跡・施設に設ける。（小泉委員）

最適な組み合わせでの交通手段の提供

- ・観光MaaSの活用による最適な交通アクセスの提供（西尾委員）
- ・徒歩、バス、貸し自転車、タクシー、人力車、葵舟、車等の移動手段を組み合わせる。（植田委員）

大型客船の乗客の交通手段の確保

- ・清水港の大型客船の乗客が日本平に行く際等への利便性に配慮が必要。（内山委員）

離れたエリアへの回遊のための交通手段

- ・資源が点在しているエリアまで行く公共交通手段と、エリア内を回る交通手段は別で考える（小島委員）

- ・レンタサイクル、サイクルステーションの設置を、回遊する場所とセットで考える（杉山委員）
- ・目的地周辺の回遊にはロッカーと自転車の設置が必要（小島委員）

乗用車駐車場の確保

- ・車で来た観光客が渋滞しない駐車場の確保、駐車場から歴史文化施設へのアクセス確保が重要。三保や日本平テラスに行った車はどうやって来るのかを考える必要。（小泉委員）

観光バス駐車場の確保

- ・民間施設との連携による観光バス駐車場の確保（田形会長）
- ・歴史文化施設周辺での観光バス駐車場の確保（小泉委員）

バスの1日乗車券の導入

- ・駿府浪漫バスの1日乗車券の導入（田形会長）

主な御意見

論点7 回遊ルートや移動手段の効果的な案内

使いやすいマップの作成

- ・ SNSで発信することはもちろんだが、鳥瞰図と散策マップ（A3程度で表裏・折りたたむと5cm×8cm）を用意すると鳥瞰図があると全体がわかりやすく小さいので持ち運びに便利。更に、駅から地下道、道路等に色分けした掲示があると、その色を歩いて行くと目的地（歴史文化センターステーション、市役所、県庁、セノバ、松坂屋等）に楽に行くことができる仕組みを工夫する。（植田委員）

各拠点でのわかりやすいルート案内

（静岡駅で）

- ・ 新幹線の利用客（インバウンド）に、英語の案内ができる観光案内所へのわかりやすい誘導を行う（鈴木委員）
 - ・ 初めてJR静岡駅に降りた方が、駿府城公園まで、どのようなルートで行ったらよいか、わからないという意見を聞くので、独りでも簡単に行けるような表示が必要。（内山委員）
 - ・ 静岡駅から歴史文化施設までの案内のため、駅等へサブの案内所を設置する（植田委員）
- （再掲）
- ・ JRとの協力による駅への案内所の設置（田形会長）（再掲）
 - ・ JRで来訪された方については、駅前に従来の観光案内所を超えた機能を持つ施設を設け、その施設で回遊ルートや移動手段を説明する。（内山委員）

（駿府城公園で）

- ・ 駿府城公園に来訪された方に、近隣の浅間神社、臨済寺の見どころを紹介し、駿府浪漫バスで容易かつ安く行けることを紹介する。（内山委員）

観光MaaSの活用

- ・ 観光MaaSの活用による最適な交通アクセスの提供（西尾委員）